

〈コラム〉

西村英俊先生とさくらキャンパスネットワーク (arukas net)

奥野 浩*

Hiroshi OKUNO*

さくらキャンパスの多くの教職員の方がご存知のように、西村英俊先生の尽力によって、このキャンパスのネットワークサービスが提供されてきた。西村先生の定年のこの機会に、この小文にて、西村先生の貢献について述べたいと思います。

1. ネットワークの計画と資金の調達

ネットワークを立ち上げたときはもちろんその後の設備の更新においても、そのための予算が用意されていたことはなく、その資金を得るために、助成金を獲得しなければなりません。そのため、西村先生は、更新の2年ほど前より、計画を練り、本部に対して根回しをされていました。その計画を作るためには、ハードウェアとソフトウェア両方の様々な知識が必要なため、よく調べ物をされていました。助成金の申請は、計算機実習室の設備の更新においても必要であったため、夏季オリンピックよりも頻繁に助成金の申請書類を一人で書きあげられていました。獲得したネットワークと実習室の助成金の総額は億を超える額になります。

2. ネットワークの構築

助成金を得て実際の工事が始まると、細かな業者との打ち合わせが必要になります。工事は、助成金の決定などの関係で、2月末から3月という時期に行われていました。ハードウェアの設置はほとんど業者任せなのですが、西村先生は、問題が起こる度に業者や事務との交渉していました。論理的なネットワークの設計やサーバの設定等ソフトウェアの設定は、多大な見識と経験を要するもので、西村先生しか行えないことでした。この設定をスムーズに行

うため、前年の夏ぐらいより実験用のネットワークを組み、設定のチェック等をされていました。このため、例えばメールサーバを更新してもユーザは気づいてはいないようでした。

3. ネットワークの運用

日々の運用においても、西村先生は先頭に立って行ってきました。問題を見つけると、そのログを解析し対応していきました。このようなトラブルシューティングは根気のいる仕事で、たとえば、1つずつケーブルをはずしてみてもそれによる変化を見ることによって、原因となっている箇所を見付け出すなどということもありました。

ネットワークを停止せざるを得ないような大きなトラブルは十数年間でわずか2回、そのうち最大のもはユーザの研究室内のネットワークケーブルの接続ミスによるもので、原因究明に3日間の時間がかかりました。

ほとんどの方はご存じないと思いますが、サーバ上のログから、頻繁にネットワークは外部からの攻撃を受けていることがわかります。それにより、様々な障害が起こるので、西村先生はいろいろと対応されていました。

年1回の検査停電後には、休日出勤をされ、メールサーバを復帰させるなど、ユーザの利便性を考えいち早くシステムは復旧するようにしていました。

平成25年度までのさくらキャンパスネットワーク arukas net は、西村先生の働きによって成り立っていました。ここに、ネットワーク管理についての弟子でありまたユーザの一人として感謝の意を表したいと思います。

* 順天堂大学医学部

School of Medicine, Juntendo University